



活発に議論する異業種の参加者たち

若者に農漁業の技伝承を 海、川での体験の場欲しい

異業種間初の交流会

洋野活性化へ活発に議論

異業種間での情報交換や交流を盛んにし、新製品開発や販路拡大を目指そうと、洋野町は27日、町民文化会館で、異業種交流会を初めて開催した。町内の幅広い分野の業種から22人が参加し、自分の業種から考へる町の将来像や、観光客へのPR方法などについて意見を交わした。(川守田将和)

町長が直接、町民かした。アドバイザーとら意見や提言などを聞いて、岩手県職員でNPO法人「北いわて未来21」の代表理事「来ラボ」の下平暢樹さんから「異業種との意見交換を促した。」との声が上がったことを受け、開催した。

参加者は6〜8人の班に分かれ、「10年後の町はこうなっている」というテーマで、町内の農業、水産、食、情報サービス、旅などを知らしめるために、館などの業種から参加できることは「など、

町内の農業、水産、食、情報サービス、旅などを知らしめるために、館などの業種から参加できることは「など、

班ごとに与えられたテーマについて考えた。「将来は高齢者が多くなる。産直施設を活用し、高齢者が集い、若い人に農業や漁業の伝統を伝える場にしては」「農作業体験の他

に、川釣り体験など海や川を使ったものがあるのもいい」など、活発な意見が出た。途中で席替えも行い、交流の機会を広げた。町は今後も交流会を開いて異業種間の交流を進め、地場産業の活性化を図る方針だ。

に、川釣り体験など海や川を使ったものがあるのもいい」など、活発な意見が出た。途中で席替えも行い、交流の機会を広げた。町は今後も交流会を開いて異業種間の交流を進め、地場産業の活性化を図る方針だ。